

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036		
法人名	コスモケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモ松島 ユニット名 ちどり		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成27年10月1日まで	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

松島湾に面した自然豊かな閑静な住宅地の中にあり、広い中庭を使って夏祭りや芋煮会を行ない利用者様とご家族様や地域の方々と共に楽しみ頂いております。畑の野菜を収穫し、シソ巻きや干し柿、イチジクの甘露煮等を一緒に作り季節を感じながら食の楽しみを味わって頂いております。又、名勝松島の観光地へのドライブや外食を企画し、気分転換を図り楽しみのある生活を提供しております。

先の震災の教訓に毎月防災・避難訓練を行い、年に2回消防署の指導によりAEDや心肺蘇生法、消火器訓練等指導頂き、職員一同防災の意識を常に高く持っています。

外へ散歩に出掛けると、地域の方とお互い挨拶や世間話をする等、地域の皆様との関係性も良好です。町内会に入り、地区の定期総会や地域の避難訓練、清掃活動、稲荷大祭等地域行事に積極的に参加し、地域との連携を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松島海岸に近く、自然豊かな閑静な住宅地に立地している。周辺に保育所、商店、コンビニがあり、生活の利便性は高い。運営理念と各ユニットの理念の実践を心がけ、笑顔を忘れず、その人らしい尊厳を守り、ケアの質の向上に努めている。利用者は収穫した旬の野菜で料理を作り、食器拭き等自分の出来る力を発揮し、職員と和やかに暮らしている。頻繁に訪問する家族や友人、地域住民、ボランティアも多く、馴染みの関係を持続できるよう支援している。運営推進会議への地域包括職員や区長の参加、住民参加の避難訓練、町との福祉避難所の締結、介護サービス基盤整備協議体委員としての活動等を通し、着実に行政や住民との信頼関係を築き、連携を図っている。また資格取得支援や、外部研修への積極的な参加等により職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松島 ）「 ユニット名 ちどり 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼の場で運営理念を唱和して実践につなげている。またユニット理念をリビングに掲示し、常に立ち返りながらサービスの改善、質の向上に努めている。	会社の運営理念と各ユニットの理念があり、リビングに掲示され、職員は迷った時には理念に立ち戻り、ケアの質の向上に努めている。年間計画に理念見直しを組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の一員として定期総会や地域の避難訓練、清掃活動、お祭り等積極的に参加している。地域の方々にはホームの行事や避難訓練にご参加頂いている。又、保育所や松島高校生との交流もある。地域を散歩すると、近所の方が気軽に話しかけて下さる等、地域に根付いた事業所作りが徐々に実を結んでいる。	町内会に加入し避難訓練や清掃活動、高校の文化祭に参加している。踊り、紙芝居、ハンドベルなどのボランティアが訪れ、保育所との交流や高校生の介護体験もある。ホームの夏祭りなどに家族や住民が参加し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や、運営推進会議に参加頂き、地域の皆様に認知症についてご理解頂ける様働きかけている。又、地域のSOSネットワークの協力団体として地域高齢者の安全に協力している。介護サービス基盤整備協議体の委員として毎月会議に参加し、災害時の福祉受入れ施設としても地域貢献できる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の様子や待機情報、事故の報告等を行い率直なご意見を頂き、会議で話し合われた内容やご意見はスタッフ間で共有し、その意見を柔軟に取り入れ、サービス向上に努めている。	会議は隔月開催、社協職員、地域包括職員、区長、利用者、家族が参加し、利用者の状態、研修や行事の報告、意見交換をしている。避難訓練を会議開催日に実施、地域住民との協力の必要性を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に欠かさずご参加頂き、事業所の実情や日頃の状況をお伝えし、ご意見ご指導を頂いている。又、地域ケア会議や町の基盤整備協議体の委員として毎月会議に参加、災害時の福祉受入れ施設としても協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括職員が参加し、意見交換している。地域包括ケア会議、介護サービス基盤整備協議体、SOSネットワークへの参加、町との福祉避難所協定締結など、地域との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設マニュアルや、内部・外部研修に参加し身体拘束の弊害について勉強し、身体拘束を行わないケアを実践している。玄関は夜間のみ安全の為に施錠している。	不安な心身状況の利用者には寄り添いや見守りで対応している。内部研修や外部研修に参加し、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。頻りにホームを訪れる住民も多く、交流を通じ認知症への理解を深め、協力関係が築かれている。施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での研修会、勉強会において高齢者虐待防止について理解を深めると共に、日々の申し送りや普段の支援の中で、スタッフ同士でお互いの支援方法を客観的に評価し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居されていた入居者様が財産管理サポートセンターの支援事業を利用していた経緯があった事もあり、職員が制度についての理解を深められるように研修等行わない学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は利用者様やご家族様へ契約書や重要事項の内容に添って分かり易く、一方的にならないように説明を行い、理解と同意の上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で利用者様の要望や意見をくみとり、ご家族様の面会時に伝え兼ねなく話して頂ける関係作りに努めている。又、運営推進会議でご意見を頂き、玄関脇に記録を置いて閲覧して頂くと共に、ご意見箱を設置し、随時投稿して頂けるようにしている。	家族は面会時や運営推進会議、ケアプラン作成時、利用者は日常のケアを通して意見を聞いている。利用者の担当者は毎月家族にお便りを出すなど、意見が出しやすい関係作りに努めている。要望や意見は職員間で共有し、定例会議やカンファレンスに反映させ、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会において入居者様の満足度や職場の改善点について意見を出し合い、より良い施設と職場の環境作りを目指している。又、目標設定シートを基に年2回の面談で職員の意見や目標を聞き、反映させている。	毎月の定例会議や年2回の面談を通して、運営の改善点や利用者の満足度などを話し合い、運営に反映させている。旬の野菜の収穫や季節の料理作りなど、職員の工夫を取り入れ、利用者に喜ばれた。資格取得支援も受験料や研修費の支援など積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度の利用や外部研修への参加を促し、やりがいや向上心を持って仕事ができるよう職場環境の整備に努めている。又、年2回人事考課を実施し定期的な面談を行い公平な評価を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後1カ月は「わかば研修」と言う形で管理者や先輩スタッフの指導・アドバイスを受けている。又、均等に外部での各種研修会に参加する機会を設け、職員の経験や能力に合った研修に参加し、内部研修でも伝達し、学び合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や松島町他職種会議への参加や外部研修を通じて、相互関係を構築し地域福祉事業のサービスの質の向上を図っている。又、社内の研修で他の事業所と勉強会や情報交換を行ったり、スタッフの交換研修や応援体制を作り、相互訪問の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の実態調査の際に、利用者様やご家族様と話し、安心信頼を得られる関係作りに努めている。入所後は要望等を伺いながら信頼関係作りに努め、カンファレンスや申し送り等話し合いの場を設け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査等にて、ご家族様が抱える不安や要望の一つひとつを傾聴し、入居後もご家族様と連携をとりながら、カンファレンスや申し送りにおいて情報を共有し適切な支援ができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等により入居者様やご家族様からの意見や要望をお聞きし、必要な支援の検討を行なっている。入所までの待機期間中に必要なサービスについては必要時に情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活用しながら、ご自身でできる事はして頂き、カーテン締めや食器拭き、縫物、洗濯たたみ、洗濯干し、調理補助等生活の中で役割を持ちながら共に過ごし合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊・通院にはご家族様の協力も頂いており、ご家族様、施設側共に常に利用者様を支えていく体制作りに努めている。又、面会時には日頃の様子をお伝えし、利用者様とご家族様の良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や馴染みの関係を把握した上で地域資源を活用するよう努め、入居時も馴染みのある家具等お持ち頂くようにしている。友人や知人等、馴染みの方に施設に気兼ねなく訪問頂き、関係性が途切れない様努めている。地元の観光地や商店を訪れる機会を設けている。	行きつけのスーパー・商店、馴染みの観光地などに出掛けられるよう支援している。家族、親戚、知人、近隣住民などが頻繁に訪れている。また自宅への外出、外泊などで、家族と関係を深めたり、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのバックグラウンドや性格、日中の生活の様子を把握し、その時その時に合った対応を心掛け、良好な関係が築ける様努めている。必要によっては入居者様の間に入る等、孤立する様な状態にならない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入居や入院による退去の後にも面会に伺い、ご家族様から感謝の思いを伝えられている。亡くなられた際にはお悔やみに伺い、退所後もいつでも相談頂ける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や行動から利用者様の思いを察し、希望や意向の把握に努めている。申し送りや毎月行っているカンファレンスを通して、利用者様本位の生活が実現できるよう努めている。	生活歴や趣味の把握、その人に寄り添った声掛けなどを通し、希望や思いを受けとめている。編み物が好きな方、折り紙が得意な方などそれぞれ好きなこと、やりたいことが叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階において、本人様やご家族様・過去のサービス事業者等から、生活歴や生活の把握を行い、入居後もご家族様や本人様の要望をくみとり、その方らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から一人ひとりの心身状態の把握に努め、日々の様子を個別記録に残し情報を共有している。毎月のカンファレンスにおいて対応方法やサービスの有り方について検討し、サービスの質の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や本人様の要望を把握し、日頃関わっている職員から身体状況の変化や対応方法についての意見を求めモニタリング及びカンファレンスを行っている。プラン変更の必要がある時は、職員やご家族様と相談し、介護計画に反映している。	3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。モニタリングやカンファレンスは毎月職員全員で行い、参加できなかった職員にも意見を聞くなど、全職員の意見を反映させている。見直しが必要な場合は家族にも意見を聞き、ケアプランを作成している。ケアプランは家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画された内容を実践できたかを個別の記録(今日の私)とサービス内容確認表に記入して現状把握に努め、情報を共有しながら介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の希望に応じ、買物支援や散歩、病院への受診等、変化あるニーズに柔軟、かつ適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほとんどの利用者様が町内や近隣の方なので、日々の会話や生活の中で地域資源を活用している。ご家族様の協力のもと外泊や外出の機会を設けたり、町内の保育所や高校生との交流や文化祭、稲荷大祭、敬老会、水族館見学等、地域での暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様やご家族様の希望に添い決定している。心身の状態に応じ主治医と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医はほとんどが協力医療機関であり、定期的な訪問診療を受けることができる。協力医療機関への通院は職員が付き添い、利用者の状況を支援経過表で、医師へ説明し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族に結果を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設において看護職は不在であるが、必要に応じて往診医や看護師と連絡を取り合い適切な医療が受けられる様努めている。受診の際には医師への申し送り事項や医師からの指示を書面に残し、職員間で情報を共有して共通の対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は介護サマリーを送付すると共に入院期間中は複数回面会に伺い、病状を確認している。その間は医師・看護師・医療ソーシャルワーカー等、医療関係者との連絡体制を密に取り、病状の把握に努めている。退院時には看護サマリーを頂き情報交換を相互に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書にて、施設としてできる事を伝えている。ご本人様・ご家族様の意向を尊重し、その方らしい終末期を迎えることができる様、引き続き話し合っていくことを説明している。	看取り指針はある。入居時にホームで出来ること、出来ないことを説明し、緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関と連絡を取り、対応することとしている。看取りケアや急変時対応の外部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議の際に緊急時対応マニュアルの読み合わせを定期的に行っている。又、年に2回松島消防署と連携して心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法についての指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害における避難訓練を実施しており、避難方法や避難場所の確認・避難訓練を繰り返し行う事で全スタッフが迅速に対応出来る様に取り組んでいる。又、近隣住民の協力者の方には緊急連絡網に電話番号を記載させて頂き、災害時の応援を依頼している。毎月11日に防災用品の点検を行なっている。	火災、風水害、地震津波マニュアルはある。毎月避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。消防署との訓練時には消火器やAEDの使い方、心肺蘇生訓練も実施した。また住民参加の避難訓練も実施し、災害時の協力体制を築いている。毎月11日には防災品や備蓄の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけの仕方や対応方法について一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。排泄、入浴時は特にプライバシーを損ねないように、スタッフ間で話し合い利用者様が不快な思いをしない様に心がけている。	呼び名は家族と相談して決めている。入室時にはノックしたり、声がけし、本人の同意を得て入室している。排泄介助は他人に気づかれないようトイレや居室にさりげなく誘導するなど誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。プライバシー保護の研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが選択しやすいような声掛けを行ない、表情やしぐさから思いをくみ取り、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にコミュニケーションを図り、一人ひとりの望まれる過ごし方をして頂いている。裁縫したい方、料理をしたい方、計算や漢字の勉強をしたい方、日向ぼっこをしたい方等その時々に行いたい事を聞き取り、希望をくみとって実現できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際の衣服の自己決定や化粧を行なう機会を設ける等、おしゃれができるように支援している。定期的に訪問理美容を依頼し、好みの髪型にカットしたり、パーマ、毛染めなどをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力や役割に応じて下ごしらえや味付け、盛り付け、食器拭き等を一緒に行なって頂いている。食べる事は皆さん大好きなので、畑から収穫したシソの葉を摘み、シソ巻き味噌を作ったり、干し柿やイチジクの甘露煮等を一緒に作り食の楽しみを味わって頂いている。	メニューは栄養士が作成し、栄養チェックも行っている。食材は畑で収穫した旬の野菜も取り入れ、利用者と一緒にシソ味噌やお菓子などを作り、食の楽しさを共有している。食器拭きを手伝う方もいる。誕生会には利用者の希望を聞いて、メニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、栄養バランスのとれた食事を提供している。入居者様一人ひとりの咀嚼や嚥下状態・その時の健康状態を把握した上で食事形態を選択し提供している。水分の不足についてはゼリーの提供やジュース等嗜好物の提供をご家族様との話し合いの元で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行い、不十分と思われる方への支援を行なっている。義歯は夕食後洗浄剤にて消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の有する能力を把握し、可能な限り自立に向けた排泄を検討すると共に、排泄パターンや習慣を把握し、その方に合わせた対応を行っている。夜間排泄量の多い方は記録を確認しながら排泄誘導を行なっている。	排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導するなど、安心して排泄できるよう支援している。トイレは「便所」と馴染みの言葉で分かりやすい位置に表示する配慮をしている。自然な排便のため、十分な水分摂取や乳製品、野菜、ゼリーなどの活用を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下能力、その時の健康状態を把握した上で食事形態を選択し提供している。水分の不足についてはゼリーの提供やジュースなど嗜好物をご家族様と話し合い提供している。又、散歩や体操など体を動かすことに努めている。必要時は医師に相談し、整腸剤・緩下剤を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し、定期的な入浴の機会を設けている。希望があった際にはできるだけ希望に添えるよう対応している。入浴の辞退が強い方についてはシャワー浴や清拭等、入浴にこだわらない形で清潔保持に努めたり、時間をおいたりスタッフを変えたり、毎日声掛けする等入浴の機会を増やす様努めている。	入浴は週2～3回であるが、毎日の方もいる。時間や順番、湯温は希望を聞いて決めている。お湯は一人ずつ替え、気持ち良く入浴できるよう工夫している。入浴嫌いの方には無理強いせず、職員を替えたり、声かけの工夫をしている。ゆず湯や菖蒲湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態を把握し、希望時や必要時には適度に休息時間を設け、生活リズムを整える様に努めている。又、夜間休まれる際は居室の湿温度に気を配ると共に、寝具の調整等を行い、安眠できる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養指導書、処方箋にて使用目的や副作用の確認をしている。服薬に変更があった際は受診記録にて周知している。変更後の状態の変化については日々観察を行い主治医へ情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やその方の能力を基に食器拭き、カーテン締め等役割を持ち、張り合いのある生活の支援を行なっている。又、庭の畑の野菜を収穫したり、天気の良い日は中庭で日光浴をする等、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉等季節に合わせたドライブや外食の機会を設けている。ご家族の協力もあり、月に何度か自宅へ外出・外泊されたり、家族と外食される方もいる。体調と天気の良い日を見て、町内の馴染みの店や観光地を巡って楽しんで頂いている。	利用者の希望により、買い物、墓参り、知人宅訪問など外出支援を行っている。また初詣、お花見、あやめ園見物、紅葉狩りなどへ車椅子対応の車で外出したり、希望で奥松島など懐かしい場所などへも行き、戸外の空気に触れ生き生きと過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預りし、毎月収支報告を行なっている。希望される方にはご家族様のご理解を得ておやつや生活用品等一緒に買い物に行く支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話や手紙のやり取りが出来る様体制を整えている。ご家族様と手紙やはがきのやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁面作成や行事の写真、利用者様の作品等を展示し、居心地の良い空間作りに努めている。温度、湿度を管理調整し、時間をみて空気の入替えを行なっている。共用部分は昼夜共に清掃の時間を設け、心地よく暮らせる環境作りをしている。	リビングは天窓から光が注ぎ、明るい。壁には季節のちぎり絵や行事写真が飾られ、家庭的な雰囲気である。窓からはウッドデッキのある中庭や畑が見え、解放感がある。和室の小上がりもある。朝、夕の清掃も徹底し、共用空間は清潔に保たれている。また感染予防のため手すりや椅子の除菌も行っている。温・湿度管理も適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビを見たり、日向ぼっこをしながら外を眺めたり、一人ひとりに合わせた居場所作りをしている。小上がりの畳の場所は、食事をするフロアとも違い、落ち着きのある空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具や愛着のある物、ご家族様の写真、ご本人様の作品等を飾り、自分の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している。	ベッドとクローゼットが設置されている。馴染みの三面鏡を持ち込んでいる方もいる。壁には書道の掛け軸や、油絵などの利用者の作品、家族や行事の写真も飾られ、その人らしく過ごせるよう支援している。掃除は職員が行い、清潔に保たれている。温・湿度管理は職員が行い、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能的な面も含め、トイレは出来るだけその方が慣れている場所を使用し頂く等、環境の変化に戸惑う事の無い様に配慮しながら支援を行っている。またトイレには場所が分かり易い様、看板を掲げている。各所に手すりを設置し歩行できる方は安全に移動できるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名 かもめ		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成27年10月1日まで	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

松島湾に面した自然豊かな閑静な住宅地にあり、広い中庭を使って夏祭りや芋煮会を行ない利用者様とご家族様や地域の方々と共に楽しみ頂いております。名勝松島の観光地へのドライブや外食を企画し、気分転換を図り楽しみのある生活を提供しております。町で開催される敬老会等には入居者様と参加し、入所後も地域やご家族様との関わりを大切に支援しています。日々の暮らしの中では家事活動や余暇活動を通じ信頼関係を構築できる様配慮し、家庭的で温かい馴染みの環境作りをしています。毎日の食事は栄養士が献立を作り、利用者様にお手伝い頂きながら手作りで出来立てを温かいうちに提供しています。誕生日には本人様の希望や嗜好に添い、手作りのケーキや食事を提供したり、希望によりレストラン等で外食の機会を作りお祝いしています。おやつもシソジュースやおはぎ、スイートポテト、干し柿、イチジクの甘露煮等季節感を取り入れた物を手作りで召し上がっていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松島海岸に近く、自然豊かな閑静な住宅地に立地している。周辺に保育所、商店、コンビニがあり、生活の利便性は高い。運営理念と各ユニットの理念の実践を心がけ、笑顔を忘れず、その人らしい尊厳を守り、ケアの質の向上に努めている。利用者は収穫した旬の野菜で料理を作り、食器拭き等自分の出来る力を発揮し、職員と和やかに暮らしている。頻りに訪問する家族や友人、地域住民、ボランティアも多く、馴染みの関係を持続できるよう支援している。運営推進会議への地域包括職員や区長の参加、住民参加の避難訓練、町との福祉避難所の締結、介護サービス基盤整備協議体委員としての活動等を通じ、着実に行政や住民との信頼関係を築き、連携を図っている。また資格取得支援や、外部研修への積極的な参加等により職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHコスモス松島 ）「 ユニット名 かもめ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼の場で運営理念を唱和して実践につなげている。またユニット理念をリビングに掲示し、常に立ち返りながらサービスの改善、質の向上に努めている。	会社の運営理念と各ユニットの理念があり、リビングに掲示され、職員は迷った時には理念に立ち戻り、ケアの質の向上に努めている。年間計画に理念見直しを組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の一人として定期総会や地域の避難訓練、清掃活動、お祭り等積極的に参加している。地域の方々にはホームの行事や避難訓練にご参加頂いている。又、保育所や松島高校生との交流もある。地域を散歩すると、近所の方が気軽に話しかけて下さる等、地域に根付いた事業所作りが徐々に実を結んでいる。	町内会に加入し避難訓練や清掃活動、高校の文化祭に参加している。踊り、紙芝居、ハンドベルなどのボランティアが訪れ、保育所との交流や高校生の介護体験もある。ホームの夏祭りなどに家族や住民が参加し、地域との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事や、運営推進会議に参加頂き、地域の皆様に認知症についてご理解頂ける様働きかけている。又、地域のSOSネットワークの協力団体として地域高齢者の安全に協力している。介護サービス基盤整備協議体の委員として毎月会議に参加し、災害時の福祉受入れ施設としても地域貢献できる様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の様子や待機情報、事故の報告等を行い率直なご意見を頂き、会議で話し合われた内容やご意見はスタッフ間で共有し、その意見を柔軟に取り入れ、サービス向上に努めている。	会議は隔月開催、社協職員、地域包括職員、区長、利用者、家族が参加し、利用者の状態、研修や行事の報告、意見交換をしている。避難訓練を会議開催日に実施、地域住民との協力の必要性を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に欠かさずご参加頂き、事業所の実情や日頃の状況をお伝えし、ご意見ご指導を頂いている。又、地域ケア会議や町の基盤整備協議体の委員として毎月会議に参加、災害時の福祉受入れ施設としても協力関係を築いている。	運営推進会議に地域包括職員が参加し、意見交換している。地域包括ケア会議、介護サービス基盤整備協議体、SOSネットワークへの参加、町との福祉避難所協定締結など、地域との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設マニュアルや、内部・外部研修に参加し身体拘束の弊害について勉強し、身体拘束を行わないケアを実践している。玄関は夜間のみ安全の為に施錠している。	不安な心身状況の利用者には寄り添いや見守りで対応している。内部研修や外部研修に参加し、身体拘束をしないケアの徹底を図っている。頻りにホームを訪れる住民も多く、交流を通じ認知症への理解を深め、協力関係が築かれている。施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部での研修会、勉強会において高齢者虐待防止について理解を深めると共に、日々の申し送りや普段の支援の中で、スタッフ同士でお互いの支援方法を客観的に評価し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居されていた入居者様が財産管理サポートセンターの支援事業を利用していた経緯があった事もあり、職員が制度についての理解を深められるように研修等行ない学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は利用者様やご家族様へ契約書や重要事項の内容に添って分かり易く、一方的にならないように説明を行い、理解と同意の上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で利用者様の要望や意見をくみとり、ご家族様の面会時に伝え気兼ねなく話して頂ける関係作りに努めている。又、運営推進会議でご意見を頂き、玄関脇に記録を置いて閲覧して頂くと共に、ご意見箱を設置し、随時投稿して頂けるようにしている。	家族は面会時や運営推進会議、ケアプラン作成時、利用者は日常のケアを通して意見を聞いている。利用者の担当者は毎月家族にお便りを出すなど、意見が出しやすい関係作りに努めている。要望や意見は職員間で共有し、定例会議やカンファレンスに反映させ、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会において入居者様の満足度や職場の改善点について意見を出し合い、より良い施設と職場の環境作りを目指している。又、目標設定シートを基に年2回の面談で職員の意見や目標を聞き、反映させている。	毎月の定例会議や年2回の面談を通して、運営の改善点や利用者の満足度などを話し合い、運営に反映させている。旬の野菜の収穫や季節の料理作りなど、職員の工夫を取り入れ、利用者に喜ばれた。資格取得支援も受験料や研修費の支援など積極的に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度の利用や外部研修への参加を促し、やりがいや向上心を持って仕事ができるよう職場環境の整備に努めている。又、年2回人事考課を実施し定期的な面談を行い公平な評価を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後1カ月は「わかば研修」という形で管理者や先輩スタッフの指導・アドバイスを受けている。又、均等に外部での各種研修会に参加する機会を設け、職員の経験や能力に合った研修に参加し、内部研修でも伝達し、学び合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や松島町他職種会議への参加や外部研修を通じて、相互関係を構築し地域福祉事業のサービスの質の向上を図っている。又、社内の研修で他の事業所と勉強会や情報交換を行ったり、スタッフの交換研修や応援体制を作り、相互訪問の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の実態調査の際に、利用者様やご家族様と話し、安心信頼を得られる関係作りに努めている。入所後は要望等を伺いながら信頼関係作りに努め、カンファレンスや申し送り等話し合いの場を設け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査等にて、ご家族様が抱える不安や要望の一つひとつを傾聴し、入居後もご家族様と連携をとりながら、カンファレンスや申し送りにおいて情報を共有し適切な支援ができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等により入居者様やご家族様からの意見や要望をお聞きし、必要な支援の検討を行なっている。入所までの待機期間中に必要なサービスについては必要時に情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活用しながら、ご自身でできる事はして頂き、カーテン締めや食器拭き、縫物、洗濯たたみ、洗濯干し、調理補助等生活の中で役割を持ちながら共に過ごし合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊・通院にはご家族様の協力も頂いており、ご家族様、施設側共に常に利用者様を支えていく体制作りに努めている。又、面会時には日頃の様子をお伝えし、利用者様とご家族様の良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴や馴染みの関係を把握した上で地域資源を活用するよう努め、入居時も馴染みのある家具等お持ち頂くようにしている。友人や知人等、馴染みの方に施設に気兼ねなく訪問頂き、関係性が途切れない様努めている。地元の観光地や商店を訪れる機会を設けている。	行きつけのスーパー・商店、馴染みの観光地などに出掛けられるよう支援している。家族、親戚、知人、近隣住民などが頻繁に訪れている。また自宅への外出、外泊などで、家族と関係を深めたり、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様のパーソナルスペースや関係性を把握し席の配置や距離を検討している。職員が共に家事活動をしながら楽しく会話する等、言語コミュニケーションができない入居者様も和に入れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入居や入院による退去の後にも面会に伺い、ご家族様から感謝の思いを伝えられている。亡くなられた際にはお悔やみに伺い、退所後もいつでも相談頂ける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や行動から利用者様の思いを察し、希望や意向の把握に努めている。申し送りや毎月行っているカンファレンスを通して、利用者様本位の生活が実現できるよう努めている。	生活歴や趣味の把握、その人に寄り添った声掛けなどを通し、希望や思いを受けとめている。編み物が好きな方、折り紙が得意な方などそれぞれ好きなこと、やりたいことが叶えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階において、本人様やご家族様・過去のサービス事業者等から、生活歴や生活の把握を行い、入居後もご家族様や本人様の要望をくみとり、その方らしい生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から一人ひとりの心身状態の把握に努め、日々の様子を個別記録に残し情報を共有している。毎月のカンファレンスにおいて対応方法やサービスの有り方について検討し、サービスの質の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や本人様の要望を把握し、日頃関わっている職員から身体状況の変化や対応方法についての意見を求めモニタリング及びカンファレンスを行っている。プラン変更の必要がある時は、職員やご家族様と相談し、介護計画に反映している。	3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。モニタリングやカンファレンスは毎月職員全員で行い、参加できなかった職員にも意見を聞くなど、全職員の意見を反映させている。見直しが必要な場合は家族にも意見を聞き、ケアプランを作成している。ケアプランは家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画された内容を実践できたかを個別の記録(今日の私)とサービス内容確認表に記入して現状把握に努め、情報を共有しながら介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の希望に応じ、買物支援や散歩、病院への受診等、変化あるニーズに柔軟、かつ適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほとんどの利用者様が町内や近隣の方なので、日々の会話や生活の中で地域資源を活用している。ご家族様の協力のもと外泊や外出の機会を設けたり、町内の保育所や高校生との交流や文化祭、稲荷大祭、敬老会、水族館見学等、地域での暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様やご家族様の希望に添い決定している。心身の状態に応じ主治医と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医はほとんどが協力医療機関であり、定期的な訪問診療を受けることができる。協力医療機関への通院は職員が付き添い、利用者の状況を支援経過表で、医師へ説明し、適切な医療が受けられるよう支援している。受診後は家族に結果を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設において看護職は不在であるが、必要に応じて往診医や看護師と連絡を取り合い適切な医療が受けられる様努めている。受診の際には医師への申し送り事項や医師からの指示を書面に残し、職員間で情報を共有して共通の対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合は介護サマリーを送付すると共に入院期間中は複数回面会に伺い、病状を確認している。その間は医師・看護師・医療ソーシャルワーカー等、医療関係者との連絡体制を密に取り、病状の把握に努めている。退院時には看護サマリーを頂き情報交換を相互に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書にて、施設としてできる事を伝えている。ご本人様・ご家族様の意向を尊重し、その方らしい終末期を迎えることができる様、引き続き話し合っていくことを説明している。	看取り指針はある。入居時にホームで出来ること、出来ないことを説明し、緊急時にはかかりつけ医や協力医療機関と連絡を取り、対応することとしている。看取りケアや急変時対応の外部研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会議の際に緊急時対応マニュアルの読み合わせを定期的に行っている。又、年に2回松島消防署と連携して心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法についての指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月災害における避難訓練を実施しており、避難方法や避難場所の確認・避難訓練を繰り返し行う事で全スタッフが迅速に対応出来る様に取り組んでいる。又、近隣住民の協力者の方には緊急連絡網に電話番号を記載させて頂き、災害時の応援を依頼している。毎月11日に防災用品の点検を行なっている。	火災、風水害、地震津波マニュアルはある。毎月避難訓練を実施し、夜間想定訓練も行っている。消防署との訓練時には消火器やAEDの使い方、心肺蘇生訓練も実施した。また住民参加の避難訓練も実施し、災害時の協力体制を築いている。毎月11日には防災品や備蓄の点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声がけの仕方や対応方法について一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。排泄、入浴時は特にプライバシーを損ねないように、スタッフ間で話し合い利用者様が不快な思いをしない様に心がけている。	呼び名は家族と相談して決めている。入室時にはノックしたり、声がけし、本人の同意を得て入室している。排泄介助は他人に気づかれないようトイレや居室にさりげなく誘導するなど誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。プライバシー保護の研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが選択しやすいような声掛けを行ない、表情やしぐさから思いをくみ取り、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にコミュニケーションを図り、一人ひとりの望まれる過ごし方をして頂いている。裁縫したい方、料理をしたい方、計算や漢字の勉強をしたい方、日向ぼっこをしたい方等その時々に行いたい事を聞き取り、希望をくみとって実現できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際の衣服の自己決定や化粧を行なう機会を設ける等、おしゃれができるように支援している。定期的に訪問理美容を依頼し、好みの髪型にカットしたり、パーマ、毛染めなどをされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力や役割に応じて下ごしらえや味付け、盛り付け、食器拭き等を一緒に行なって頂いている。食べる事は皆さん大好きなので、畑から収穫したシソの葉を摘み、シソ巻き味噌を作ったり、干し柿やイチジクの甘露煮等を一緒に作り食の楽しみを味わって頂いている。	メニューは栄養士が作成し、栄養チェックも行っている。食材は畑で収穫した旬の野菜も取り入れ、利用者と一緒にシソ味噌やお菓子などを作り、食の楽しさを共有している。食器拭きを手伝う方もいる。誕生会には利用者の希望を聞いて、メニューに取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を元に食事を提供している。入居者様一人ひとりの咀嚼や嚥下状態・その時の健康状態を把握した上で食事形態を選択し提供している。水分の不足についてはお茶ゼリーを提供したり、夜間トイレ起床時に水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行い、不十分と思われる方への支援を行なっている。義歯は夕食後洗浄剤にて消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の有する能力を把握し、可能な限り自立に向けた排泄を検討すると共に、排泄パターンや習慣を把握し、その方に合わせた対応を行っている。尿意便意がはっきりしている方は布パンツに変更し残存能力の保持に努めている。夜間排泄量の多い方は記録を確認しながら排泄誘導を行なっている。	排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。夜間もトイレ誘導するなど、安心して排泄できるよう支援している。トイレは「便所」と馴染みの言葉で分かりやすい位置に表示する配慮をしている。自然な排便のため、十分な水分摂取や乳製品、野菜、ゼリーなどの活用を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下能力に合わせた食事を提供し、水分摂取に努めている。又、散歩や体操など体を動かすことに努めている。便秘気味な時は前後の生活を見直し原因を探り再発防止策を検討している。必要時は医師に相談し、緩下剤を処方頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し、定期的な入浴の機会を設けている。希望があった際には時間や日にちを変更する等できるだけ希望に添えるよう対応している。同姓介助を希望される方には同姓の職員が対応できるようにしている。	入浴は週2~3回であるが、毎日の方もいる。時間や順番、湯温は希望を聞いて決めている。お湯は一人ずつ替え、気持ち良く入浴できるように工夫している。入浴嫌いの方には無理強いせず、職員を替えたり、声がけの工夫をしている。ゆず湯や菖蒲湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状態を把握し、希望時や必要時には適度に休憩時間を設け、生活リズムを整える様に努めている。又、夜間休まれる際は居室の湿湿度に気を配ると共に、寝具の調整等を行い、安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養指導書、処方箋にて使用目的や副作用の確認をしている。服薬に変更があった際は受診記録にて周知している。変更後の状態の変化については日々観察を行い主治医へ情報提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動が得意な方には、食器拭きや洗濯たたみ等を役割として頂き、物を作るのが得意な方には創作活動をして出来上がりの達成感を感じて頂く等、個々の能力に応じ活気ある生活が送れるよう支援している。季節行事やお誕生会、外食等企画し楽しみとされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は近くの海を見に散歩したり、買い物を楽しまれている。紅葉見物に出かけられたり、お誕生日には仲の良い入居者様やご家族様と外食に出かけられている。又、外出し墓参りされたり、お盆や正月に外泊しご家族様とのんびり過ごされる方もいる。	利用者の希望により、買い物、墓参り、知人宅訪問など外出支援を行っている。また初詣、お花見、あやめ園見物、紅葉狩りなどへ車椅子対応の車で外出したり、希望で奥松島など懐かしい場所などへも行き、戸外の空気に触れ生き生きと過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預りし、毎月収支報告を行なっている。希望される方にはご家族様のご理解を得ておやつや生活用品等一緒に買い物に行く支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話や手紙のやり取りが出来る様体制を整えている。ご家族様と手紙やはがきのやり取りをしている方もいる。又、個人で携帯電話を所持し自由にご家族様と連絡されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を管理調整し、時間をみて空気の入替えを行なっている。共用部分は昼夜共に清掃の時間を設け、心地よく暮らせる環境作りをしている。行事の写真や季節の貼り絵等の作品を展示し季節を感じられる様工夫している。ウッドデッキに出て洗濯干しや日光浴をされている。	リビングは天窓から光が注ぎ、明るい。壁には季節のちぎり絵や行事写真が飾られ、家庭的な雰囲気である。窓からはウッドデッキのある中庭や畑が見え、解放感がある。和室の小上がりもある。朝、夕の清掃も徹底し、共用空間は清潔に保たれている。また感染予防のため手すりや椅子の除菌も行っている。温・湿度管理も適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビを見たり、日向ぼっこをしながら外を眺めたり、一人ひとりに合わせた居場所作りをしている。小上がりの畳の場所は、食事をするフロアとも違い、落ち着いた空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やアルバムをお持ち頂いている。居室にはご家族様や本人様の写真を飾り、温かい雰囲気作りに努めている。テレビを持ち込み、好きな番組を楽しみにされている方もいる。本人が使用しやすい様ベッド等の配置を工夫している。	ベッドとクローゼットが設置されている。馴染みの三面鏡を持ち込んでいる方もいる。壁には書道の掛け軸や、油絵などの利用者の作品、家族や行事の写真も飾られ、その人らしく過ごせるよう支援している。掃除は職員が行い、清潔に保たれている。温・湿度管理は職員が行い、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動機能的な面も含め、トイレは出来るだけその方が慣れている場所を使用して頂く等、環境の変化に戸惑う事の無い様に配慮しながら支援を行っている。またトイレには場所が分かり易い様、看板を掲げている。各所に手すりを設置し歩行できる方は安全に移動できるようにしている。		